



小学生バドミントン通信

NO.22 2022.03

発行：日本小学生バドミントン連盟 会長 黒川 茂

感じます、若葉カップの、素晴らしさ。

岡垣ジュニア 男子監督 池田 明 男

日本小学生バドミントン連盟創立30周年記念 おめでとうございます。コロナ禍の中、第37回若葉カップを開催してくれました大会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

第37回若葉カップ全国大会の男子団体に優勝させていただき有難うございました。コロナ対策で試合・応援形式が全て変わり参加チームは大変だったと思います。それ以上に、主催者側のご苦勞を感じる良き大会でした。

ジュニアクラブの大切な所は、バドミントンの楽しさを子供達に教える事、「畑を耕し、バドの種をまき、丈夫な苗を育てる。」ジュニアの指導者は子供達が大好きで、次にバドが大好きでなければ良き指導者にはなれないと50年近く思ってクラブ運営をして来ました。

子供達がバドミントン大好きになると友達を誘いクラブ員も増えて活気も出てきます、お互いに競争をしてレベルも高くなります。父兄達も子供のため・クラブのために協力してくれます。そのような環境が出来上がると、選手達は自主的に強く成ると思っています。勝利が第一ではなく、バド大好き選手にするのが第一と思います。

岡垣ジュニアにはバド大好き選手が50人います、それに日本一の父兄の会（見守り会）が有り、優秀なバド経験者コーチが10名以上いて熱心に毎日指導してくれます。（ボランティアコーチには感謝・感謝です。）

良きクラブ環境から育った選手達が男子・女子2チーム若葉に参加しました。クラブの目標は男女ダブルス優勝ですので、今年も大きな目標に挑戦しましたが残念ながら女子は初戦で敗退して今年も果たせませんでした。

男子チームはシングルスの方の井川（6年）ダブルスの春木・牧野（6年）来年活躍する濱口・柳（5年）の5人で大会に臨みました。飛びぬけた選手はいませんが、穴の無い選手達が揃いました。勝利の女神が岡垣ジュニアに舞い降りて、運よく優勝をさせていただきました。優勝した要因は最後に成る6年生3人が150%の力を出して全勝したことと、柳コーチの言葉「友を裏切るな、次につなげ」が選手達を纏めてくれました。私も他界するまで「男女ダブルス優勝」の目標に挑戦させていただきます。

ひとりじゃない 感動が勇気に 変わる夏。

有難うございました。





2021年度の大会記録



日本小学生バドミントン連盟創立30周年記念 第37回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟・長岡京市)

2021年7月17日～19日／京都府長岡京市・西山公園体育館

【男子の部】

- 優勝 岡垣ジュニア (福岡県)・・・3回目
- 2位 川越ジュニア (埼玉県)
- 3位 ハルトノクラブ (茨城県)
永井クラブ (岡山県)

【女子の部】

- 優勝 青梅ジュニア (東京都)・・・初優勝
- 2位 プライドジュニア (栃木県)
- 3位 NOCK (愛知県)
下松ジュニア (山口県)

コロナ禍での戦い・・・個々の力の集結

青梅ジュニア監督 松村 美智子

今回はコロナ禍にも関わらず、若葉カップを開催していただいた(公財)日本バドミントン協会、日本小学生連盟、長岡京市に深く感謝いたします。

特に長岡京の関係者の皆様には、大会前からの細部に亘る感染対策の徹底等、感謝に耐えません。また担当のコンシェルジュの方には駐車場から待機所、試合会場での入退館の誘導など、一日中帯同頂き、安心して試合に集中する事ができました。

2020年から新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、東京都では緊急事態宣言が何度も発令されています。体育館が使えない時もあります。練習はメニューを作りそれを動画で送ってもらい、コーチが編集して、その動画を共有することで、モチベーションを維持させる事しか出来ませんでした。それが気持ちを切らずにここまで到達する事が出来た事だと確信しています。

当たり前のように毎日練習出来ていたことが、19時半までしか体育館が使えず、遠方から通う子は週末にしか参加できず、団体戦であって個々の集まりとなりました。それでもシャトルを打てる喜び、感謝の気持ちを無くさないで、明日から体育館が閉鎖になるかもしれない、今日が最後の練習になるかも知れないという事を常に思わせる事で、集中力が着いたような気がしました。チームでも外出禁止、チーム内での感染対策の注意を作成し、手指、シャトル、用具の消毒の徹底、毎日の検温の記録等、緊張感の連続です。

さて、2012年、第28回の大会で男子が優勝し、その後予選すら通過できなかったチームでしたが、チーム編成が変わり、第38回大会は優勝!という目標を持つことができました。女子は実に17年ぶりの出場でした。青梅ジュニア

としても男子優勝以来の9年ぶりの出場となりました。

チームとしては6年生女子の昨年度全国フェス優勝のダブルス(蘭田優奈・渡邊杏梨)を軸に、シングルスは6年生東京都3位の森田七海、5年生東京都1位の神尾明希の構成です。コーチの事前調査から多くのオーダーを考えましたが、最終的には不動の最強オーダーで臨みました。

西山公園体育館に着き、銀のプレートに刻まれている男子の名前を見つけ、選手たちは「次は私達がここに刻むんだ」と心に誓ったと思います。本来ならばOBの保護者、コーチの方々も現地で応援をと希望されていました。色々な制限があるので同行していただくことは出来ませんでしたが、試合のLIVE中継を観て感動の瞬間を共有することが出来ました。LIVE配信には、感謝しかありません。

今年は青梅 JrOBがランキングサーキット3位で勢い付けてくれて、現役が若葉カップ優勝、OBのインターハイ団体戦優勝・ダブルス優勝と現役チーム及びOB共に全員で頑張っています。

体育館が使えなくても出来る事はある。気持ちを切らせないで、次の目標に向かわせたいと思います。合言葉は Never GiveUp & Smile!!



ジュニアバドミントンフェスティバル IN さいたま

(主催：日本小学生連盟)

2021年11月6日～7日/埼玉県さいたま市 サイデン化学アリーナ

[第22回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会 熊本大会]
[新型コロナウイルス感染拡大のため中止 (2021.8.14～15)]

【男子Aクラス(5・6年生)】

優勝 松本 真優 (栃木県)
2位 坂口 功 (東京都)
3位 萩原 駿希 (埼玉県)
坂脇 憲広 (埼玉県)

【男子Bクラス(3・4年生)】

優勝 串間 太政 (宮崎県)
2位 田沢 太一 (埼玉県)
3位 篠原 緑 (埼玉県)
山口 拓 (東京都)

【男子Cクラス(1・2年生)】

優勝 北村 大芽 (神奈川県)
2位 櫻井 恵太 (富山県)
3位 小谷 龍生 (岡山県)
渡部 峻 (愛媛県)

【女子Aクラス(5・6年生)】

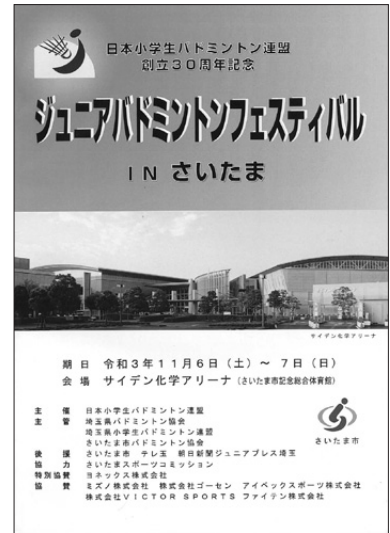
優勝 阿波芽衣咲 (福岡県)
2位 原口 倅歩 (鹿児島県)
3位 中沢 莉子 (栃木県)
芳賀 凜歩 (宮城県)

【女子Bクラス(3・4年生)】

優勝 東谷 悠吹 (北海道)
2位 高木 洵奈 (岐阜県)
3位 池内 美音 (兵庫県)
後藤 那月 (千葉県)

【女子Cクラス(1・2年生)】

優勝 藤城 百蘭 (東京都)
2位 大石 亜美 (長崎県)
3位 宮内陽菜子 (鹿児島県)
芝田 英吏 (富山県)



第30回全国小学生バドミントン選手権大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟)

2021年12月26日～29日/福島県郡山市・須賀川市 宝来屋郡山総合体育館・須賀川アリーナ

【都道府県対抗団体戦：男子の部】

優勝 富山県 岩城 樹生・奥 真優・高尾 壮介
(3回目) 舩田 遼羽・三石 草太・安田 翔
2位 京都府
3位 埼玉県・長野県
5位 東京都・山形県・栃木県・神奈川県

【都道府県対抗団体戦：女子の部】

優勝 鹿児島県 原口 倅歩・松戸 海・横路 昊和
(2回目) 馬場 結渚・野元 あい・白田 絢音
2位 東京都
3位 茨城県・兵庫県
5位 愛知県・神奈川県・福島県A・宮城県

【6年生男子シングルス】

優勝 松本 真優(栃木県・UDC)
2位 萩原 駿希(埼玉県・鳩ヶ谷ウイングス)
3位 坂口 功(東京都・渋谷ジュニア)
寺島 拓夢(宮城県・チームTRY)

【5年生男子シングルス】

優勝 松下 一誠(北海道・Sparky Jr)
2位 安田 翔(富山県・富山和合)
3位 西村 采人(石川県・松任ジュニア)
青木 一馬(長野県・南木曾ジュニア)

【4年生以下男子シングルス】

優勝 串間 太政(宮崎県・UNAID宮崎)
2位 篠原 緑(埼玉県・志木ジュニア)
3位 田沢 太一(埼玉県・所沢ジュニア)
馬詰 瑛翔(埼玉県・志木ジュニア)

【6年生男子ダブルス】

優勝 美濃龍斗・坂本結翔(千葉県・市川ジュニア)
2位 春木俊平・牧野隆希(福岡県・岡垣ジュニア)
3位 大塚海飛・森田倫展(埼玉県・川越ジュニア)
石川 隼・池田純一郎(愛知県・はりあつぷ)

【5年生男子ダブルス】

優勝 石井春馬・山口 拓(東京都・渋谷ジュニア)
2位 殿畑玲人・岩瀬剛大(神奈川県・綾瀬ジュニアBC)
3位 加本逸真・竹田悠希(島根県・おろちクラブ)
四柳佑真・北野陽彩(石川県・shinshin)

【4年生以下男子ダブルス】

優勝 内藤遥希・稲川達士(埼玉県・川越ジュニア)
2位 甲林哩直・野田千瑛(岐阜県・大垣市BSS)
3位 井口 蓮・田中大智(奈良県・橿原ジュニア)
青山大都・米谷蕃人(愛知県・はりあつぷ)

【6年生女子シングルス】

優勝 阿波芽衣咲(福岡県・岡垣ジュニア)
2位 小林 佳依(兵庫県・佐用BJC)
3位 芳賀 凜歩(宮城県・石巻クラブ)
上野 優寿(山形県・立川バドスポ少)

【5年生女子シングルス】

優勝 板橋 ゆい(宮城県・SJC)
2位 田沢めいな(埼玉県・所沢ジュニア)
3位 沖本 愛音(広島県・美鈴が丘JBC)
河村珠莉奈(愛知県・びわじまBC)

【4年生以下女子シングルス】

優勝 富田 千晴(茨城県・桜川Jr.)
2位 曾根 紬(神奈川県・NP神奈川)
3位 高木 洵奈(岐阜県・垂井JSC)
後藤 那月(千葉県・ベイヒッターズ)

【6年生女子ダブルス】

優勝 青山ひかり・高玉幸佳(茨城県・ハルトノ)
2位 蘭田優奈・渡邊杏梨(東京都・青梅ジュニア)
3位 吉野羽都希・梅澤唯花(東京都・練馬アドバンス)
横路昊和・馬場結渚(鹿児島県・川内ジュニア)

【5年生女子ダブルス】

優勝 近藤愛未・真泉果央(京都府・BELIEVE)
2位 井 優愛・林 奈未(兵庫県・SJB C)
3位 福田咲貴・森崎葉名(神奈川県・Selfish)
柳下璃央・長原里紗(神奈川県・横浜白山スポ少)

【4年生以下女子ダブルス】

優勝 鳥川愛加・武石玲那(茨城県・東少年)
2位 木下華乃・小松奏乃(長野県・T.I.J長野)
3位 坂本音音・新村美羽(千葉県・市川ジュニア)
東 若菜・福田梨乃(富山県・JBCふちゅう)





全国小学生バドミントン選手権

6年男子シングルス優勝

栃木県 UDC 松本 眞 優



まずは今大会を開催して頂いたことに感謝したいと思います。

あと、毎日指導してくれた村岡先生、いつもコーチに入ってくれた田崎監督、一緒に練習してくれた先輩たちにも感謝したいと思います。

昨年はコロナ過で大会がなく、代替大会になってしまい残念でしたが、今回は6年で小学生最後の年で開催してもらえて、とても嬉しかったです。

僕は、幼稚園の年中からバドミントンを始めて、兄と一緒に楽しくバドミントンを続けてきました。

小学一年からABC大会に出場して、それ以来毎年全国大会を目標に頑張ってきました。

練習態度が悪くコートに入れてもらえないこともちょくちょくありました。

それでも、根気強く指導してもらいました。

その毎日の積み重ねが今回の成績に繋がったと思っています。

絶対に勝てない兄の存在も大きかったと思います。

これから中学生になっても、尊敬する兄を目標に日々努力していきたいと思っています。

新型コロナウイルスの感染状況がおさまらない中ではありましたが、日本小学生バドミントン連盟創立30周年を記念する大会として、令和3年度にABC代替大会を含む3つの全国大会が実施され、その様子をまとめた「小学生通信」を発行できたことを嬉しく思います。

開催地(京都府・埼玉県・福島県)の皆さま方には、感染対策を徹底していただき、また、選手・指導者・保護者の皆さまには、大会運営等に多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。

練習でも、会場や練習方法に制約が加えられたり、大会が実施できたとしても応援をしたり受けることができないなど、思い切りバドミントンをプレーし、楽しむことがむずかしい状況でしたが、選手が試合で見せた「最後まであきらめず必死にシャトルに食らいつく姿」は、必ずや一人一人の輝かしい未来につながっていくと信じています。

これからも、「小学生通信」をよろしく願います。

6年女子シングルス優勝

福岡県 岡垣ジュニア 阿波 芽衣咲



私は、今回優勝して三連覇することができました。

4年生の全小を優勝した時に、三連覇できるのは4年を取った人だけって山田コーチが教えてくれました。池田コーチは、岡垣ジュニアに二連覇した人はいるけど三連覇した人はいないので頑張れと

言ってくれました。それから目標になりました。

小学2年生からバドミントンを始めて、すぐに大好きになりました。

最初はだれにも勝てなくて、早く強くなりたくて、追いつきたい目標の人を決めて、一生懸命練習しました。練習に行きたくないと思った事は一度もありません。

いつも練習している体育館はコートが3面でせまいです。たくさんのチームメイトが練習しているので、勝ち上がっていかないと全面で打てませんでした。私はとても負けず嫌いなので、チームの中で競争する事で強くなっていったと思います。

5年6年のABC大会や全小までの2年間は、コロナウイルスの急速な感染拡大で、体育館が閉鎖されて全く練習ができなくなりました。何か月も羽が打てなくて、大会がほとんど中止になって、とても苦しい時期がありました。

その時も、たくさんの人達が助けてくれました。父と母は毎日自主練習に付き合ってくれました。

今回三連覇できたのは、自分の努力だけじゃなくて、指導してくれたコーチ達、支えてくれた家族、いつも応援してくれる岡垣ジュニアの友達のおかげです。

池田コーチが優勝した時に帽子を投げるくらい喜んでくれました。感謝しかありません。

これからの目標は、全中も優勝して、たくさんの人に応援してもらえるような選手になる事です。



日本小学生バドミントン連盟 事務局

〒068-0025

北海道岩見沢市5条西13丁目20番地 下野和義 気付

TEL : 0126-25-0089 FAX : 0126-25-4710

http://www.syoubad.jp

E-mail : shimono@syoubad.jp